

2008年11月2日 全聖徒主日

イザヤ 26:1-13 ヨハネの黙示録 21:22-27 マタイによる福音書 5:1-12

★今週の聖句

「喜びなさい。大いに喜びなさい」

マタイによる福音書 5:12

★ねらい

- ①教会歴は全聖徒主日となる。つまり、この主日は召天者を覚える主日であり、その脈略でテキストが選ばれている。ゆえに、自ずと焦点を当てるべきポイントがはっきりとしている。
- ②それはまず「天の国」である。召天者が眠りにつくところが天の国であること。次に先に召された聖徒たちがどのように生き、しかも幸い時にいかにして幸いと喜びを得たのかを思い起こすこと。さらには、私たちが聖徒として、どのように生きるべきかを読み取ることが期待される。

★説教作成のヒント

1. 「…な人々は、幸いである」と9つの幸いが繰り返されるが、原文は「幸いである。…な人々は」という具合に、「幸い」が無条件に与えられていることの宣言となっている。日本語では「…な者は」と、幸いを得るには諸条件が必要であるかのような印象を与え勝ち。このポイントをまず押さえない。
2. 九つの幸いをすべて語ることは困難である。また、教会歴の制約もあるので、「天の国はその人たちのものである」とある3節と10節について語る（あるいは一つだけを）が、ひとつの方法であろう。
3. 子供たちにとっての辛いことや悲しい体験を取り上げながら、しかしそのような時に神様に祈り、助けを求めることのできるキリスト者（教会学校に来ている子供たち）はとても幸い（大きな喜びがある）であることを伝える。例えば、星野富広さんのような特別な苦しみの体験したキリスト者（あるいは、身近な召天者を）を取り上げることが有益である。

★豆知識

- ・「心の貧しい」の「心」は、実は原文は通常「霊」と訳される言葉（プネウマ）が使われている。本来、「霊」と訳した方が良いと思われるが、文語訳や口語訳（以前使っていた聖書）で慣れ親しんできた「心の貧しい」を優先したのであろう。細かい議論は避けるが、「心」は人間のもの、「霊」は神様のものであり、全然意味が違うことを知っていることが参考になる。
- ・「天の国」という言葉は、ルカの福音書では「神の国」という言い方に変わる。
- ・ルター派では11月1日は全聖徒の日。ルター時代のカトリック教会では、この日を殉教者や聖人のための記念日とし、諸信徒の召天者の記念日は翌日に定められていた。カトリックでは、聖人と諸信徒の区別は現在も行われている。

★説教

みなさんはお墓参りをすることがありますか？ 例えば、春や秋、あるいは夏のお盆休みのころにお墓参りをする習慣が日本にはあります。亡くなった人たちを覚える日です。教会にも教会の墓地に行ってお墓参りする習慣があります。そして1年に1回、死んだ人たちのことを思い起こす日もあります。それが今日です。（教会学校の後の大人の礼拝で、召天者の遺影等を飾る教

会では、そのことを話しても良い)

人は死んだ後にどこに行くのか、みなさんは知っていますか？ 先生も死んだことがありますから、どこへ行くのか確かめたことはありません。ですから、「ここに、宇宙のあそこに」という具合に説明することはできません。時どき、天国へ行ったことがあるようなことを言う人がいますが、それは怪しいと思います。信じない方が良いでしょう。

聖書には、人が死んだお話しがたくさん書いてあります。あまり人が死んだ話しなんか聞きたくありませんが、でも、いつかは誰でも死んでしまいますから、やっぱり大事なことです。聖書を読んで気づくことがあります。それは、人が死ぬことを「眠りにつく」とたくさん書いてあることです。みんなも夜になると眠りますね。眠っているときにはちゃんと心臓も動いていますね。だから眠っている人は生きています。朝になれば目を覚まします。人が死ぬこともこれと同じだと聖書は教えています。確かに人は死ぬと心臓が止まります。この世では姿が見えなくなります。でもイエス様は、人は死んでも、神様の下に帰って、そこで眠りにつくのだよと教えて下さいました。だから、どこかで生きています。とても不思議なお話しです。でも、少し心が温かくなる話しです。

さっきもお話ししましたが、人が死んだ後にどこに行くのか、誰も確かめることはできません。でも教会では長い間、人は死んだ後には神様の下に帰って、そこで眠りについて、いつかまた新しい命に目を覚まして行くと信じて来ました。それが天の国のことです。先生もこの教えを信じています。自分の死について考えることや、家族などの親しい人の死を考えることは怖いし、いやですが、でもこの教えを信じる人は、どこかに不思議な安心感があると思います。

今日は全聖徒の日です。聖徒とは、イエス様を信じる人たちのことです。今信じている人も聖徒ですが、もう死んでしまった聖徒もいます。その聖徒たちが、今日の国で眠りについてることを覚える日です。みなさんの中には、イエス様を信じないで死んだ家族の人（お爺ちゃん、お婆ちゃんなど）がいる人もたくさんいることでしょう。先生のお父さんもお母さんも、イエスさまを信じないで死んでしまいました。でも、そのような人たちも、神様の下で眠りにつくことができますようにと、先生は神様にお祈りします。きっと神様はこの祈りに耳を傾けて下さると信じています。みなさんもそのような人たちがいれば、今夜寝る前にお祈りして下さい。

イエス様を信じる人はみな聖徒です。イエス様を信じる人と信じない人との違いはどこにあるでしょう。悲しいことがあり、辛いことがあり、見に覚えのないことで悪口を言われることがある。これは誰でも同じです。いやむしろ、教会学校に通っていることやイエス様を信じていることで、学校で嫌な思いをすることさえあるかも知れません。もちろん楽しいことや喜びもある。これも同じです。

でも違うところがあると思います。それは、辛いときに、どうして良いか分からないときに、イエス様に祈ることができるし、神様に助けを求めることができることです。神様は必ず聞いて下さるのです。そして何よりも、神様が天の国を用意して下さっていることを信じられることです。イエス様を信じて死んでしまった人たちも、私たちと同じようなことを体験したのです。そして今、天の国で眠りについてるのです。私たちの目には見えません。でもきっとそうです。そう考えると、少し心が温かくなり、少し勇気が与えられるように感じます。私たちもその聖徒の群れに繋がって行きたいと思います。

★分級への展開

さんびしよ

*讚美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□118番

□改訂版135番

やってみよ

□ どんぐりマラカスをつくろう

<用意するもの>

500mlのペットボトル・どんぐり（数個）・セロハンテープ（2色以上）・ビニールテープ・毛糸・トイレットペーパーの芯

- ① ペットボトルの中にどんぐりを入れてふたをする。
- ② ペットボトルのふたにトイレットペーパーの芯をかぶせてビニールテープでとめる。
- ③ 6~7cmに切った毛糸の先にセロハンテープでどんぐりをくっつける。（3コくらい）
- ④ どんぐりのついた毛糸をペットボトルの中央あたりにぐるっと1周ビニールテープで巻いてくっつける。トイレットペーパーの芯が持ち手になります。
- ⑤ ビニールテープで自由に飾ってできあがり。シールを貼ってももかわいいよ。

マラカスを鳴らしながら、喜びうたいましょう。（ノリの良いさんびかなら何でもOK）

こどもさんびか改訂版 8番 ・幸せなら手をたたこう などなど

はなそう

- イエスさまがおっしゃる「幸いな者」は、わたしたちが一般的に考えている幸せ者とは、どういうところが違うのでしょうか。5章3-10節を読んで、話してみましよう。
- ただ、神さまを信頼して生きる人生とは、どういう人生でしょうか。考えてみましよう。
- 「イエスさまのために、ののしられたり、迫害されたり、悪口を言われたりするとき、天の国には大きな報いがある。大いに喜びなさい」とあります。ここでも、わたしたちのこの世の中での感覚と、神さまの視点の違いがあることが感じられます。どんな部分に違いを感じますか？話し合ってみましよう。
- 今日、イエスさまは、あなたに、どのように生きることを勧めておられると思いますか？考えてから、みんなで分かち合ってみましよう。

★今週の聖句

「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、
あなたの神である主を愛しなさい。」

マタイによる福音書 22:37

★ねらい

- ① の専門家らの質問に対するイエスの答えは、旧約聖書からの引用であった。それが申命記（第一の掟）とレビ記（第二の掟）。ここからイエスの教えそのものは、本来旧約聖書の教えに則ったものであることが確認される。つまり、旧約聖書とイエスの教えには何の乖離もないことが、まず認識されなければならない。
- ② しかし、神の教えを人間が語る時に、それがしばしば人間のご都合主義に利用され、汚されるのである。その象徴的な例が、ファリサイ派とサドカイ派の旧約聖書理解であった。イエスの教えは、旧約聖書の教えを本来の神のみ心に適ったものに立ち返らせるものであった。
- ③ それはが第一の掟と第二の掟のいずれをも律法を満たすことである。第一の掟なしに「隣人愛」はないし、第一の掟だけで終わる律法もない。しかも「隣人」は、同民族や親族などの親しい人たちだけを指すのではなく、むしろ「見知らぬ隣人」こそが、愛の対象であることを語る。

★説教作成のヒント

1. 「愛」という言葉を私たちは日常的に耳にしているが、それはヒューマンイズムに代表されるように、実に人間的な愛である。ゆえに聖書の「愛」は、私たちが耳にしているものと根源的に異なるものであった。このヒューマンイズム的な愛と区別されなければならない。
2. ヒューマンイズムの愛は、結局は人間に向かう。例えばナルシストという言葉に象徴されるように、この愛の場合は自分へ向かう自己愛に終わる。あるいは他者へ向かうことがあったとしても、それは飽くまで人間に、しかも親しい者のみに向かう傾向を持つ。イエスは「自分を愛するように」と、自己愛そのものを頭から否定しているのではないが、その前に第一の掟、すなわち「神へ向かい愛」（信仰）が大事にされなければならないと言われた。十字架のように、まず縦の関係があり、その次に横の関係がある。この縦と横の愛があつてこそ、人は本当に生きることがポイント。
3. 並行記事としてのルカ福音書の「善いサマリア人の喩え」（10:25～）が助けとなる。そこには「私の隣人が誰か」という問いと答えが書いてある。家族、友人、同国人だけが隣人ではないし、またただ近くにいる人が隣人でもない。自分が積極的に隣人に愛を向け、興味を持ち、そして友としての関係を築けた人が真の隣人となるのである。

★豆知識

- ・このテキストの前に、ファリサイ派（22:15～）とサドカイ派（22:23～）のそれぞれがイエスに論争を挑み、失敗していることが書かれてある。もともと両派は仲が悪かったが、共通の敵を見出したことで急速に接近し、この後イエスを十字架に付けるために団結する。
- ・聖書の「愛」は言語のギリシャ語では大まかに区別されて使われている。人間同士、人間に向かう愛はエロス。神の愛は（イエスの愛）アガペー。このアガペーの愛は、「価値のない者に向かう愛」（打算など、計算をせず、利得のためではない愛）とも言われている。

★説教

聖書にはファリサイ派とかサドカイ派と呼ばれる人たちがよく出てきます。律法学者も同じです。この人たちはイエス様とよく論争するのですが、でも根っからの悪い人たちではありませんでした。それどころか、神様によくお祈りをし、十戒の教えもよく守り、神殿にお参りすることにも熱心だった人たちです。ですから、イエス様から誉められてもおかしくない人たちでした。でも何かおかしかったのです。何か大事なことが見えなくなっていた人たちでした。

私たちもこういう体験をします。例えば運動会があります。みなさんも徒競走があれば、一生懸命に走るでしょう。障害物競走があると、わき目も振らず一生懸命に走ります。そうすると、走ることに必死になりますから、周りにどんな人たちがいるのか気づきません。友達やお母さん、父さんが大きな声で声援していたのも聞こえません。

小学生のころ観た手塚治さんの「鉄腕アトム」というアニメを先生はよく思い起こします。ロボット同士の運動会がありました。ある島まで誰が一番早く到着して、そしてスタート地点まで帰って来られるかという競争です。ところがレースの途中で、もう一つの島で火事が起こってしまいました。しかも誰かが助けを求めていました。アトムは迷いました。人を助け出し、火事が広まらないようにバケツで海の水を汲んで消すことを考えましたが、そんなことをしたら競争に負けてしまいます。他の多くのロボットたちは、「そんなことほっとけ」と言って、火事の島を通り過ぎてゆきました。でもアトムは、見知らぬ人であっても、その人たちを助けることの方を選んだのです。火を消し終わった後でアトムはまた競争に戻り、必死で空を飛びました。でも、やはり負けてしまったのです。

でも、この運動会の優勝者は普通の運動会と違っていたのです。実は、ロボットに優しい心があるかどうかを見る競走だったのです。もちろんアトムはそんなことは知りませんでした。結局優勝したのは、何とアトムだったのです。誰よりも早く走ろうとして、助けを求めている人たちのことが見えなくなってしまったロボットよりも、たとえ見知らぬ人であっても、困っている人の声に足を止めて、手助けしたアトムが賞賛されたのです。

ファリサイ派とサドカイ派の人たちもこれと同じだったと思います。神様を熱心に愛することは大切なことです。教会学校に一生懸命に通うこともこれと同じように、とっても大切なことです。十字架を見て下さい。十字架は縦の柱（線）がまずあります。神様と私たちのことです。この縦の柱がまずきちんとなければいけません。

でも、それだけでは駄目です。私たちの周りには色々な隣人がいます。まず家族、学校のお友達などです。でも隣人はもっとたくさんいます。世界に目を向ければ、毎日の食事を食べられない子供たちが世界中には何億人もいると言われます。近くの隣人も遠くの隣人も、私たちに声援を送り、同じ様に助けを求めています。そのような隣人の声を聞くために、時どき足を止めましょう。耳を傾けましょう。そして私たちができる愛の行いを少しして見ましょう。それが十字架の横の柱（線）のことで、この二つの柱がどちらもしっかりと結び付くことが大切なことです。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

14番

改訂版3番

やってみよ

1番大事な掟を探してみよう

<用意するもの>

折鶴用のおりがみ（7,1cm 四方）・のり・たこ糸など

- ① 好きな色のおりがみ（5色）にみことばを5つに分けて書く。（心を尽くし・精神を尽くし・思いを尽くして・あなたの神である・主を愛しなさい）このときおりがみの角を上下にして◇横書きにする。裏に名前を書いておく。
- ② こども達に別室で待ってもらい名前を上にしておりがみを隠す。
- ③ こども達にそれぞれ自分の名前を書いたおりがみを5枚探してもらおう。
- ④ 全員見つかったら順番を確認して縦に並べてのりで貼る。
- ⑤ 1番上のおりがみに穴を開けてたこ糸をつけるとできあがり。厚手の画用紙を縦長に切って貼ってもよい。

イエスさまが言われた1番大事な掟です。目に見えるところに飾って忘れないようにしましょうね。

はなそう

“心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、神さまを愛する”って、どういうことでしょうか。どうすることでしょうか。

考えてみましょう。そして、みんなで分かち合ってみましょう。

マタイ 25章 35-40 を読んでみましょう。隣人を自分のように愛することと、神さまを愛することには、どのようなつながりがあると思いますか。考えてみましょう。

2008年11月16日 聖霊降臨後第27主日

ホセア 11:1-9 テサロニケの信徒への手紙一 3:7-13 マタイによる福音書 25:1-13(30)

★今週の聖句

「だから、目を覚ましていなさい」

マタイによる福音書 25:13

★ねらい

- ① 教会歴の終わり（次週が最終歴）が近づき、それに伴い聖書箇所は「この世の終わり」に関する記事が選ばれた。本箇所に先立ち、24章からすでに終末（この世の終わり）に関する話しが始まっており、24:36にも「目を覚ましていなさい」という小見出しが付いている。本箇所と極めて似た言い回しであるが、しかしながら語られた内容は随分と異なっている。ゆえに、本箇所特有のこの世の終わりのための備えが語られていることにまず注視しよう。
- ② 「賢さ」とは何か。この世的な意味での「賢さ」に代表されるのが、IQや偏差値という言葉であり、この言葉に影響された「賢さ」に私たちは支配され、毒されている。まことの賢さとはどのようなものであるかをしっかりと読み取ろう。

★説教作成のヒント

1. 「目を覚ましていなさい」とは、居眠りすることを戒めているのではない。ただ単に「目覚めていること」が求められているのでもない。この意味で24:36以降の内容とは異なる点を十分に注意する必要がある。
2. 愚かな乙女と賢い乙女の決定的な違いはどこにあるのか。それは夜中に居眠りしているのかどうかの違いではない。賢い乙女はどうしても居眠りしてしまう自分の弱さを十分認識していた。ただ単に油の準備を怠らなかつた者が賢いということではない。それは「自分の弱さ、破れを素直に認める」ことの延長線上の行動であった点を押さえよう。ここからまことの「賢さ」は明らかとなろう。
3. この世的な賢さは、知識と技能に優れていることを指す。それは自分の強さを誇示し、破れや弱点を見せないことに繋がってゆく。これは聖書の語る「知恵と知識」の違いにも相当しよう。神の知恵とこの世の知識は根源的に異なったもので、むしろこの世的な知識や賢さが、神の前に謙虚になることを阻み、福音との出会いを妨げることになる。
4. 「主を畏れることは知恵の初め」（箴言 1:7）や「十字架の言葉は、滅んでいく者にとっては愚かなものですが、私たち救われる者には神の力です」（コリント一 1:18）の言葉も助けとなろう。

★豆知識

- ・聖書には婚宴の譬えがしばしば登場する。

ユダヤの国では婚宴が1週間ほど続いたと言われている。だからカナの婚礼では、イエスが足りなくなったぶどう酒を追加するために水がめ6つに水を満たし（合計700ℓほど）、それを美味しいぶどう酒に変える奇跡を行った話しが出てくる。これほどの量を飲み干すことは1～2日では無理。大切なことは、この世の終わりとはキリスト者にとって「祝い事」であるということ。

- ・「油」とは何を意味するのだろうか？ 例えばルターは「神のことば」と言った。繰り返し神のことばを聴かないと、枯渇してしまうと考えたのである。

★説教

本当に「賢い人」はどんな人か、これが今日のイエス様の教えです。みんなはどんな人が賢い人だと考えていますか。先生が当てて見ましょう。それは勉強ができる人です。「ピンポン」でしょう。学校の成績が良い人がそうだとみんなは思っているでしょう。確かに、それも賢い人だと先生も思います。だから、みんなも勉強を頑張ってください。

でもイエス様は、神様から見たらそれはちょっと違うと言われたのです。例えば、みんなも想像して見て下さい。私たちはここから十字架を見上げています。十字架の形はどんなものか分かりますし、十字架を見れば、神様のことが少し見えて来ると考えています。では逆に、空の方から十字架を見れば、どう見えるでしょうか。またここにいる私たちはどのように見えるのでしょうか。きっと私たちが見ている十字架の光景と、空からの十字架と私たちの光景は全然違うはずです（サルバドール・ダリの『磔刑図』のような、天から見た十字架を描いた絵画などは効果的）。

これと似ていると思います。私たちから見れば、賢い人は、例えば勉強のできる人やIQの高い人となります。でも、神様の方から見ればそれは違うのです。違う賢い人の姿が見えてくる。それがイエス様の教えです。

ではどんな人が賢い人なのでしょう。10人の乙女の譬えがありました。5人が賢く、5人は愚かな乙女です。でも、ちょっと不可解な譬えです。と言うのは、5人の賢い乙女も居眠りしていたからです。みんなは学校の授業中に居眠りしませんか。誉められたことではありませんが、先生も居眠りをよくしました。ですから大きなことは言えません。でも、賢い人は居眠りなんかしないはずです。少なくとも、試験中に居眠りなんかしないでしょう。しゃきっとしているはずです。中学、高校、大学受験をする人は、居眠りをしないで頑張るはずです。そして居眠りをしなかった人ほど、難しい学校に入るでしょう。それはそれで素晴らしいことです。

でも、人間は弱いところがあると思います。「居眠りなんかしてはダメだよ」とか、「寝坊してはダメだよ」と思っているも、肝心なときに負けてしまうことがあるのです。これは居眠りだけの話してではありません。人は誰でも失敗することがあります。いろんな誘惑にも負けてしまうことがある。それが人間です。

イエス様は、そういう失敗をする人を「駄目だ」と言われませんでした。だから10人の乙女は、居眠りし、失敗してしまう点で何も咎められませんでした。では何がそれぞれ違ったのでしょうか。賢い乙女は、控えの油を準備したのです。なぜでしょうか。聖書には書いてありませんが、賢い乙女の方は、自分がどんなに頑張っても、居眠りしてしまうことがあることをちゃんと知っていたからだだと思います。つまり、自分の弱さをちゃんと知っていたのです。「破れ」という言葉でも良いのです。人間には準備も破れや綻びがある。それを素直に認めることは、意外に難しいのです。大人になればなるほど難しくなります。失敗することは、格好悪いと考えるからです。

逆に、愚かな乙女は自分に弱さがあることを認めたくなかったのです。だから、居眠りすることは悪いと考えていたのかも知れません。だから油の準備をしなかったのです。でも、肝心な時に油が切れたのです。

本当に賢い人は、まず自分の弱さをよく知っている人です。居眠りしたり、失敗したり、過ちを犯すことを素直に認められる人のことです。そのような人は、そんな失敗をしても大丈夫のように、準備を怠らない人のことです。たとえ居眠りしても（怠けることとは違うので、言い過ぎることに注意）、神様は決して見捨てるようなことはされないと、信じていることができるのです。それが賢い人です。

では、油とはいったい何を意味するものなのでしょうか。ルーテル教会の名前の人、ルターは、こう教えています。それは「神のことば」、つまり聖書のことば、イエス様の教えのことばです。確かにそうです。私たちは、いつも神様のことばを補充しながら生きるものです。今日も教会学校で聖書の教えを学んだように、イエス様の教えをこれからも補充しながら歩いて行きましょう。そうすれば安心です。神様もそのことを喜んで下さいます。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

2番

改訂版107番

やってみよ

みことば神経衰弱

<用意するもの>

今までに余ったみことばカード2組ずつ

① みことばカードを裏に向けて並べる。

② 順番に2枚ずつ開けて揃ったら聖句を読んでもらう。（トランプの神経衰弱と同じ）

聖書のことばをたくさん聴いてイエスさまが来られた時に目を覚まして待っていきましょう。

はなそう

私たちは神さまの来られる時を知りません。「いつか・・・しよう」ではなく、“今”を大切に生きることが大切なのでしょう。

あなたは、「いつか・・・しよう」と思っていることがありますか？みんなで分かち合ってみましょう。

2008年11月23日 聖霊降臨後最終主日

エゼキエル 34:11-16,23-24 テサロニケの信徒への手紙一 5:1-11 マタイによる福音書 25:31-46

★今週の聖句

「正しい人たちは永遠の命にあずかる」

マタイによる福音書 25:46

★ねらい

- ① 教会歴の終わり。教会は伝統的に、この日にはこの世の終わりについてのテキストを読む。キリストの再臨、裁きの日とも言われる。ただ、この類の内容をどのように解釈すべきかの判断は難しく、また諸解釈がある。ここから、以下の点に気をつけなければならない。
 - ・福音書全体から見て、この世の終わりの記事はむしろ少ないことから、ここだけを強調することは避けなければならない
 - ・「どのような人が裁かれ、地獄へゆくことになるのか」などの、あの世の審判めいたことの詮索は避け、最後の審判は安心して神様に委ねればよい
- ② 福音的理解によれば、神の裁きと審判はイエス・キリストの十字架にのみ向かい、私たち人間には及ばないというものである。それが十字架による救いである。この絶対的な救いがすでに与えられていることをまず覚えよう。
- ③ ただキリスト者は、最後の日を迎えるまでの地上での生活がある。ここで期待されていることは大袈裟なことではなく、病人を見舞い、困っている人を手助けするほどの「小さな行為」である。と同時に、助けを求めている人に無関心にならず、見過ごさないということである。

★説教作成のヒント

1. 神が喜ばれることは決して大きな行いではない。身近で、誰にもできるようなことである。子供たちなら、子供たちにできることである。ただ、それを実際に行うことは意外と難しいだけに（ただ口だけで終わり勝ち）、本当に行動することの意味は大きい。ここで子供たちにできる具体的な行いを例にあげよう。
2. イエスが言われる小さな行いには、重要な特徴がある。一つは、相手の必要としているものを施すことである。迷惑な親切や行過ぎたおせっかいではない。次に、自分の行いを吹聴したり、自慢しない謙虚さである。だから羊に例えられた者は、「主よ、いつわたしたちは・・・」と驚いたのである。今日もてはやされている自己主張や自己アピールではない慎ましき、謙虚さを神こそが喜ばれることを伝えたい。このテキストを題材にした有名な短編小説に「靴屋のマルチン」（トルストイ作）がある。例話として実に優れているので、用いるとよい。
3. もし永遠の火（25:41）について触れるのであれば、山羊に例えられた者の高慢さや不遜さについて語る可能性はある。私たちの誰もが持っているそのような心や思いを、神様に焼き払ってもらい、また新しい暦に向かう私たちを新しい思いにさせていただくことを祈ることである。それを「罪の赦し」と呼んでもよい。そのように祈る人は、すでに永遠の命の中を生きているのである。

★豆知識

- ・羊と山羊の譬えは、福音書ではここにしかない。なぜ山羊が毛嫌いされているのかは不明だが、羊の方が羊毛と食肉に適し、また羊飼いに従順だからかも知れない。なおイサクの息子のエサウとヤコブが長子の権利を巡って争った時、ヤコブはエサウを出し抜き、イサクに美味しい料理を差し出し、長子の権利を獲得するのに成功した。その料理は子山羊の料理であった。ただし、料理を作ったのは母親のリベカ。（創世記 27 章以下）

★説教

教会には、私たちが使っているものとは少し違う暦があります。教会の暦です。それによれば、今日は1年最後の日曜日です。大晦日のようなものです。日本では大晦日には年越しそばを食べ、紅白歌合戦などのテレビ番組を見ることが習慣ですが、教会ではこの日にはこの世の終わりのことを覚えるのが伝統です。ですから、聖書もそのようなお話しが書いてあるところを読みました。

「この世の終わり」、ちょっと怖い話しです。この世の終わりには、天国へ入れるかどうかの審判がある、こういう話しでした。羊と山羊が出てきました。羊の方が天国へ入れて、永遠の命をいただく。一方の山羊の方は入れないで、永遠の罰を受けるとありましたから、やはり怖い話しです。

聖書の他のところには、こういう話しをイエス様がされるものですから、心配になった弟子の一人が、「では、いったい誰が救われるのですか」とイエス様に尋ねたことが書いてあります（金持ちの青年の話し：マタイ 19:16～）。私たちがそう尋ねたくなるような話しです。その時にイエス様は何と言われたのかと言いますと、「それは人間にはできないけれども、神には何でもできる」とおっしゃいました。だから、先生はこう思います。「イエス様は私たちがちゃんと天国へ入れるように、神様をお願いして下さるから、何も心配しないでいいですよ」と。だから、このような話しが聖書には時どき書いてありますが、何も心配いりません。安心して下さい。

でも、今日のお話しで忘れてはいけないことがありました。私たちに神様の目は見えませんが、神様は私たちのことを見ていて下さるということです。ではどんな目でしょうか。「この子は悪いことをしないかな」とテレビカメラのように監視している目でしょうか。「この子は嘘を言ったり、人を虐めたりしていないかな」と、睨みつけるような怖い目でしょうか。違います。

今日のお話しにもあったように、とても小さな行いを神様は見えて下さったのです。監視し、睨みつけるような目ではなく、どんなに小さな行いであっても、暖かく見守って下さっていたのです。例えば、みなさんのお友達に病気の人がいたとします。その人のお家に行ったり、病院に行ったりしてお見舞いすることはできないかもしれません。でも長いお休みの人がいれば、手紙を書くことができます。それ以上にできることは、その友達が一日も早く病気が直り、また学校に通うことができるように、食事の前に、あるいは寝る前に、神様にお祈りすることです。これが大切なことです。神様の耳は私たちに見えませんが、でも神様はちゃんと聞いていて下さいます。だからこの世の終わりの日に（それがいつかは分かりませんが）、神様は「あなたは、友達が病気の時に、そのお友達のために心からお祈りしていましたね。それをちゃんと聞いていましたよ」と言われると思います。（ここで「靴屋のマルチン」の話しをしてもよい）

決して大きなことではありません。私たちの周りには病気の人だけでなく、困っている人や助けと求めている人がたくさんいます。今日は教会の暦の最後の日だと初めに言いました。少し早い感じもしますが、1年間の歩みを少しだけ振り返るときです。自分のことばかり考えないで、少し人のことを考えたり、助けを求めている友達や世界の人たちのために、何をすることができたかを思い出して見ましょう。

もし何も思い起こすことができない人は、神様が喜ばれるように、私たちができる小さな親切を少しでもこれからしたいと思います。どんな小さなことでも、神様は見えて下さいます。その後は安心して、もし「終わりの日」という日が来るのであれば、その日を迎えばよいのです。神様は私たちが羊の一人に数え、必ず天の国を用意して下さるに違いありません。

今週で教会の暦は終わり、来週からはまた新しい暦が始まります。クリスマスを迎えるアドベントです。よき備えをして行きましょう。

（もし、クリスマス会などの献金を海外支援などのために行う予定があれば、その献金の趣旨をここで話すと良い）

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

56番

改訂版121番

やってみよ

最も小さい者はどんなひと？

<用意するもの>

絵本「くつやのまるちん トルストイ作」・大きな紙

① 絵本「くつやのまるちん」を読む。なければ、聖書箇所を読む。

② 「イエスさまが言われる正しい人になるにはどんなことをすればよいでしょう？イエスさまの弟子として何ができるでしょう？」と投げかけ大きな紙にみんなで思いつくままどンドン書いていく。真ん中に暗唱聖句を書いておく。

イエスさまが最も小さい私たちといつも共にいてくださいます。そのことを覚えて勇気をもってイエスさまの弟子として歩みましょう。

はなそう

「わたしの兄弟であるこの最も小さい者」（25章40節）とは、誰のことでしょうか？

神さまは、“ある日あなたが、どこかでおこなった何か”についても、御存知です。

そのことは、あなたのこれからの生活に何か影響を与えますか？

2008年11月30日 待降節第1主日

イザヤ 63:15-64:7 コリントの信徒への手紙一 1:3-9 マルコによる福音書 11:1-11

★今週の聖句

「ホサナ。主の名によって来られる方に、祝福があるように。」

マルコによる福音書 11:9

★ねらい

- ① 教会歴の新しい始まり。クリスマスを迎えるための準備の暦（待降節）に入った。教会は伝統的にこの日には、イエスのエルサレム入城の記事を読む。ただし、この箇所は受難週に入る主日（枝の主日）にも読まれるので、その場合と異なった視点から読むことが期待される。具体的には以下の二点がポイントとなる。
- ② 神の子イエス・キリストは、どのような方としてお生まれになったのだろうか。それは「子ろば」に乗って入城されたイエスの姿に暗示されている。柔和で、驕ることなく、ただ謙遜な方としてお生まれになったのである。
- ③ 群衆はどのようにして神の子の入城を迎えたのだろうか。旧約聖書では、服や葉のついた枝を道に敷くことは、王への従順を示す表現であった。私たちにとって、クリスマスを迎える相応しい準備とはいかに。

★説教作成のヒント

1. これから読むクリスマスの物語りは、すでにこの出来事に暗示されている。神の子は謙虚な乙女マリアの胎内に宿り、誰も知りもしない家畜小屋で生まれ、そして飼い葉桶に寝かされていく。巷ではすでに、華やいだクリスマスの雰囲気支配的であろう（具体的な巷のクリスマスを語ろう）。それゆえに、聖書に描かれた神の子の姿は、クリスマスにおいても、エルサレム入城においても、そして十字架においても終始一貫していることが語られなければならない。この世と聖書のクリスマスの対比を語ろう。
2. 神の子の入城を群衆は誤解する。「ホサナ」という歓声は、栄光ある王への賛美であり、「我らの父ダビデの来るべき国に」とは、栄えある王の再来を願う叫びであった。しかしそのような期待は裏切られ、イエスを「十字架につけよ」という憎しみへ変わる。この群衆の姿は今日の私たちの姿でもあり、私たちがまことの神の子を誤解しがちであることを押さえよう。
3. 「ホサナ」、それは「我らを救いたまえ」という意味。この賛美の声には偽りがあってはならない。私たちのところに、まことの救いが到来しますようにと祈り、まことのクリスマスを祝うことができますようにと、「ホサナ」の賛美の声を歌いたい。

★豆知識

- ・待降節を教会はアドベントと呼んでいる。これはラテン語で、「段々と近づく、少しずつ近づく」という意味。アドベント・リース(クランツ)のろうそくの火を1本ずつ点け少しずつクリスマスの準備するのはこのため。
- ・ベタニアはエルサレムから東へ3キロほどの距離。この話の後、イエスの頭に高価な香油を塗った女性が登場するが、その女性はベタニアの女(14:3~)。この女はしばしばマグダラのマリアと同一視されるが(ルカ福音書の影響)、そうではない。なお、ベトファゲは「いちじくの家」の意味で、エルサレムとベタニアの間にあった。

★説教

今日からアドベント・リースに1本のろうそくの火が点りました。これからクリスマスを迎えるための準備をしていきます。教会のクリスマスは急に、あつと言う間にやってくるではありません。少しずつです。ですから、今日は1本、来週は2本、その次は3本という具合に、1本ずつ、ゆっくりとろうそくの火が点ります。少しずつ準備をするためです。私たちがこれからクリスマスを迎える準備を、ゆっくりと、そしてしっかりと行っ

て行きましょう。

さて今日は、イエス様がエルサレムの町の近くにやって来られたというお話でした。エルサレムはユダヤの国の中心（首都）の町でした。日本では東京に当る町です。ユダヤの人たちにとって特に大事だったことは、エルサレムの町には神殿があったことでした。神殿とは、神様を礼拝するところです。教会のようなところです。私たちの教会とは比べ物にならないくらいに大きかったのです。なんと、東京ドームが6つも入るくらいの城壁に囲まれていました。イエス様はその神殿にこの後行かれるのですが、その前に小さな町を通られたのです。

この頃にはすでにイエス様は、みんなの人気者になっていました。今のようにテレビやインターネット、あるいは携帯電話などはありませんでしたが、みんなが伝言ゲームのように、口で伝えていたのです。「あの人は目の見えない人を治してあげたそうだよ」とか、「湖の上を歩かれたそうよ」という具合に。ですから、大変な人気でした。だからみんなは、イエス様にある大きな期待を寄せていました。

それは、「ユダヤ人の王様になってくれるに違いない」というものです。と言うのは、イエス様の時代は、ユダヤの国はローマという国に治められていたからです。例えば、ローマの国に自分たちのお金の一部を納めなければなりませんし、お祭りをするにもローマの人に許しを得なければなりませんでした。みんなは時代劇とか見たことがありますか。時々ものすごく威張った、意地悪なお殿様や代官さまという人たちが出てきます。その人たちが、お百姓さんやお店の人たちからお米やお金をたくさん巻き上げるところがよく出てきます。ローマの人がいつもユダヤの人たちを虐めていたのではありませんが、でも似たようなことはあったと思います。

ですからユダヤの人たちは、時代劇で悪いやつをやっつける人が出てくるように（水戸黄門や金さん）、ローマの人や兵隊を「えい！」とやっつけて、鬼退治してくれる王様がやって来てくれることを待っていました。そこにイエス様がやって来たのですから、みんなの声は自然に大きくなって来たのです。「ホサナ！」、これは「私たちに助けて下さい、救って下さい」という意味です。「ダビデ」という人は、昔々にユダヤの王様としてとても強かった人です。「あのダビデ王のように、ローマをやっつけて、私たちに救い出して下さい」。「ローマ」という名前を出すと兵隊に捕まってしまうから、「ローマをやっつけろ」とは叫びませんでした。でも心の中ではそう叫びたかったのです。だから、「ホサナ、ホサナ！」と叫んだのです。

ところがイエス様は、子ろばに乗って来られたのです。白い馬に乗って、格好よく、さっそうとではありませんでした。はっきり言って、格好が悪い。ろばは足は短いし、走るのも遅い。野球の優勝チームや優勝したお相撲さんはみんな、格好良いスポーツカーでパレードしますが、イエス様は子供の自転車に乗って来られたようなものです。格好悪いでしょう。だからユダヤの人たちは、なぜイエス様が子ろばに乗って来られたのは、まだよくわかっていませんでした。

さあ、今日からアドベントです。最初に言いましたが、アドベントはクリスマスを迎えるために、少しずつ、ゆっくりと準備するときです。ですから、みなさんにもじっくりと考えていただきたいと思います。なぜ神の子イエス様は、わざわざ格好悪い、子ろばに乗ってやって来られたのでしょうか。実は、この答えが分からないと、イエス様がわざわざ糞にまみれた家畜小屋や飼い葉桶でお生まれになったクリスマスのお話しが分からないのです。

一つだけ考えるためのヒントです。私たちはつい、自分の方が他の人よりも優れているところを自慢したくなるし、そこをアピールしたくなります。ゲームを沢山もっている、格好よい服を着ている、大きな家に住んでいる等々です。ひどい場合には、弱い人を虐めてしまうのです。でもそこでは、必ず憎しみ合いが起こり、争いと差別が絶えないのです。それが神様、そしてイエス様が一番悲しまれることです。逆に、神様が望まれるのはどのような生き方でしょうか。これを考えて下さい。神様の望まれる姿がイエス様にはあったのです。子ろばの上のイエス様です。このイエス様に、私たちは心の底から「ホサナ」と賛美し、叫びたいと思います。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

68番

改訂版70番

やってみよ

クリスマスリースをつくろう

★木の実編 <用意するもの>

ツタや藤などのつる まつぼっくり どんぐり 樅の実 とうがらし 赤い実（南天・千角） 麦の穂 綿の実など 拾ってこれるもの 木工用ボンド リボン はりがね

- ① つたを円く編んでリースの土台を作る。
- ② 自由に木の実で飾る。
- ③ リボンをつけてはりがねでひっかける部分をつけたらできあがり。

★落ち葉編 <用意するもの>

紙皿 落ち葉 リボン 木工用ボンド クレヨン 穴あきパンチ

- ① 紙皿に葉っぱをくっつけて自由に飾る。
- ② クレヨンで絵や模様を描いてもよいですね。
- ③ 紙皿の上部にパンチで穴をあけリボンをつける。
- ④ お手軽リースのできあがり。

アドベントに入りました。リースを飾ってイエスさまをお迎えする準備をしましょう。

はなそう

「ホサナ」とは、どういう意味でしょうか？CSのスタッフや牧師さんにたずねてみよう。

アドベントが始まりました。「あなたの心に救い主イエスさまをお迎えする」とは、どういうことでしょうか。考えてみましょう。その後で、みんなで話してみましよう。